

二之丸御殿遺址發掘

松本城從裡到外共有三條環繞城郭的護城河，分別是內堀、外堀和總堀，它們將城郭劃分成了幾個呈同心圓狀分布的區域，日文稱「丸」，一個「丸」便是城郭內的一處防禦空間。城郭核心區域被稱為「本丸」，通常是天守及城主居所的所在地。本丸御殿位於本丸區域，在 1727 年遭焚毀之前一直是松本城的政治中樞。火災後，相關辦公機構便轉移到了二之丸御殿。

二之丸御殿位於本丸以東、太鼓門以北、內堀和外堀之間，是松本城內三處居住與辦公的綜合區域之一。遺址的發掘工作在 1970 至 1980 年代進行。這裡出土的石垣地基和大量文物令人們對 16 世紀至 19 世紀日本統治階層的生活情況有了進一步的瞭解。

明治維新（1868）後，二之丸御殿於 1871 年被改造為縣辦公廳。5 年後，相關建築失火焚毀。之後，在御殿舊址上建起了一座裁判所。1978 年，裁判所搬遷至三之丸。二之丸在考古發掘與修復工作完成後被改造成了一座公園。二之丸御殿遺址已經被指定為國家史跡。

中文	日本語
焦石 二之丸御殿地基的一部分。 從裂紋和發紅變色的部分可以看出 1876 年燒毀御殿的那場火災的火勢之兇猛。	焼石 二の丸御殿の基礎の一部。 ひび割れや赤い変色が、1876 年の大火の激しさを物語っている。
上台所「圍爐裏」 御殿廚房的一座大地爐。 包括砂岩外壁在內，地爐尺寸為 1.8×2.8 公尺。這裡出土了幾罐精製鹽。	上台所囲炉裏 御殿の台所にあった大きな囲炉裏。 砂岩の囲いを含めて 1.8 メートル×2.8 メートルの大きさがある。精製塩の入った壺が出土している。
側溝 環繞御殿建築的小溝渠。 寬 30 公分、深 20 公分。側溝在東北角分流，將水引入不遠處的護城河。	側溝 御殿を囲む浅い排水溝。 幅 30 センチ、深さ 20 センチ。北東の角で分岐し、近くの堀に水を流していた。
礎石群 這座建築的承重柱豎立在平坦的河石上。從石頭的位置可推測房間的布局。	礎石群 平らな川石が建物の柱を支えている。石の位置から部屋の間取りを推測することができる。

蓄水池和木頭水管 這個蓄水池直徑 1.37 公尺，深 1.5 公尺，內側敷黃泥。水經由木頭水管流出。	貯水槽・導水用の木管 直径 137cm、深さ 1.5m の貯水槽で、黄土で敷き詰められている。木製のパイプで水を流していた。
雪隠 這個長 5 公尺、寬 2.5 公尺的小空間裡有 3 個豎穴式茅坑，其中兩個幾乎並排排列。通常，廁所都會設在建築周邊的邊界處。	雪隠 幅 2.5m×長さ 5m の狭い範囲に 3 つの豎穴式便所が密集しており、そのうち 2 つは実質的に隣り合わせに並んでいた。便所は一般に建物の外側の縁の辺りに設置されていた。
大灶 這兩個大灶分別寬 0.6 公尺、0.8 公尺，上面放有煮飯的鍋。這裡還出土了一些環形鍋架的金屬殘片。	大竈 2 つの幅 0.6 メートルと 0.8 メートルの大型の竈で、炊飯用の鍋を載せていた。鍋を固定するリングの金属片が出土している。
信州松本御城内地下清水井分流示意圖 這張圖展示了水井中的水是如何被引入二之丸御殿廚房和附近武士宅邸的。	信州松本御城内地蔵清水井戸分水之図 水源井戸から二の丸御殿の台所や近隣の武家屋敷に水を送る様子を示したもの。